

■赤面山古墳の修復

藤井寺市内に現存する最小、1辺15mの方墳です。西名阪自動車道が真上を通ることになった時、道路のけたをアーチに仕上げたその下に大事に保護されて今に至ります。

そのアーチからの雨水のしずくが、小さな盛り土のような古墳の数か所にでこぼこした大小の穴をあけていました。今回はその修復です。

1月27日月曜の朝、文化財保護課の山田課長、上田先生のもと10人募集の所16人も当会会員が集まりました。土嚢袋に土を詰め、穴に向けて手渡しリレーで土を入れました。見た目は小さな穴でも土嚢は、案外沢山入ります。小1時間の予定が2時間の作業になりました。参加された方々は、体のしんどさをいとわずの働きでどんどん仕事を進めました。仕上げに「メデル」（草の芽や腐葉土、肥料を混ぜた土を特殊な網状の土嚢に詰める）と言う土嚢を敷きつめて終了。最後まで土嚢の具合を調整する人、土を足して均す人、古墳を愛する気持ち一杯の人ばかりで丁寧に表面が整えられました。

夕焼けに土面を赤くして写真に写っていた赤面山古墳。綺麗な形に戻って、もうしばらくすれば今の鍋塚古墳、助太山古墳のように草が青い小山になってまた美しいポイントになることでしょう。

